

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570809822
法人名	グリーンステージ株式会社
事業所名	グループホーム大仙大曲
所在地	秋田県大仙市大曲福辺内3番地1 (電話) 0187-62-7333
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成 21年 10月 7日

【情報提供票より】 (21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤8人, 非常勤4人, 常勤換算9.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 30,000 円			

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.3歳	最低	70歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合病院、荒井医院、畠山歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は緑豊かな自然の大切さを思うとともに、人間も心豊かに生活できることを痛切に願っている。この確固たる信念をホームの理念に掲げ、職員と力を合わせ日々、その人らしい生活が継続できるよう、丁寧な介護を心がけている。ホーム内は明るく、自由な雰囲気であり、周辺の林から聞こえてくる鳥のさえずりは清々しく、心が癒される空間となっている。ホームはスーパーや病院、公園も近く便の良い場所にある。職員の自然な笑顔が、利用者にとって居心地の良いホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の重度化や終末期に対するホームの方針が明確にされておらず、マニュアル作成を求められていた。その後、運営者と職員は十分に話し合い、重度化への対応はその都度、本人、家族、医師の意見を聞きながら個別に取り組み方針としている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、介護支援専門員、及び職員全員が自己評価に真剣に取り組むことで、検討の必要な事柄を抽出し、ホーム全体で取り組もうとする体制ができています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族から出される日常生活の過ごし方についての提言の他、地域行事への参加、災害時対策など多岐にわたり一つひとつ丁寧に検討、討議をしている。消火訓練は消防団と一緒に進んでいて、消防団は実際に川から水を引いて放水する等、実践的な訓練となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 推進会議の場や家族がホームを訪問した時などに意見、不安を聞き、職員全員で解決方法を話し合っている。そして、できるだけ意向に沿った支援になるように心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 外出時は気軽に地域の方たちと挨拶をしている。ホームが主催した敬老会やクリスマス会に地域の方たちを招待し、お互いを理解し楽しみながら交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者をはじめ職員全員が「豊かな心でサービスを提供し、利用者が安心して生活を継続できる」ことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で折りに触れて理念について話し合い、職員全員が理解し共有したうえで日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方たちが自分で作った野菜等を持って、気軽に立ち寄ってくれる。畑の作り方についてお互いに教え合い、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は自己評価に取り組むことで、サービス内容の良い所や今後更に検討する必要がある部分を見つけ出している。外部評価を意義あるものとし、結果を玄関に1回毎に綴じたものを設置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委推進会議を2カ月に1回定期的に開催し、利用者の状況、サービスの実際を報告している。メンバーから出された意見は職員で話し合い、サービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームを運営していくうえで不明な点が生じた時はいつでも市の担当者に相談をしている。現在は環境の面で危険な箇所の相談する等、うまく連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについて、毎月1回定期的に家族へお便りで報告している。健康診断の結果や金銭出納もきちんと報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している他、家族の面会時には声をかけ、意見や苦情を伝えやすい雰囲気作りを心がけている。出された意見は職員で話し合い、意向に沿う努力をしている。		ホームからお便りは出しているが、なかなか連絡のとれない家族の方からの意見聴取方法を検討中である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職時は利用者一人ひとりの状態を確認しながら、ダメージを最小限に抑えられるような説明をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修には参加できるような体制を整えている。研修のお知らせは職員がよく見るボードに貼り、目につきやすいようにしている。今後は他グループホーム同士の職員実地研修を予定している。		職員の段階に応じて研修の年間計画を立てて育成し、更にレベルアップを図り、より良いサービスの提供に繋がるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に所属し交流を図っている。サービスの内容や取り組み方について活発な意見交換がされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には何回か管理者が自宅を訪問し、ホームの雰囲気などの説明を行っている。希望のある方には半日位、ホーム内で過ごしてもらい徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの敷地に作った畑でスイカやサツマイモを育てている。育て方、管理方法を職員は利用者から学び、一緒に収穫の喜びを分かち合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝、その日の過ごし方を聞いている。希望する入浴時間に入浴の支援をしたり、畑作業の希望時は一緒に行ったりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のケース会議で利用者の課題、ケアの在り方を検討している。本人、家族の意見も十分に取入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は介護支援専門員を中心に毎月、見直されている。状態変化時は変化した状態に合った介護計画となるよう、本人、家族、関係者と連携を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者がホームにこもった生活にならないように、隣接しているデイサービスでの体操と一緒に加わったり、夏祭り、敬老会に参加したりと、ホームとして柔軟な体制で支援・対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医への受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は本人、家族、かかりつけ医と十分な話し合いを持ちながら、その時々合った支援ができる体制となっている。医療行為が常時必要となった場合は適切な医療機関への紹介を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事中の食べこぼしなどにはプライバシーに配慮しさりげない対応を心がけている。記録等の個人情報は保管場所に気をつけ、しっかり守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から今日したいことを自身から申し出てもらい、その希望に沿った過ごし方の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の話をしながら、職員と一緒に楽しく買い物に出かけている。利用者が得意とする献立の時はその利用者が腕をふるって調理している。また、利用者はそれぞれの能力に応じて、準備・片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	その日の希望や健康状態に合わせ、入浴の支援を行っている。夕食後の入浴も希望があった時に支援ができる体制作りを考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみごとを理解し支援している。書類作成をすることで張りのある生活を過ごしている利用者には、仕上げの段階で職員も協力し作業を行う等、利用者個々に応じた支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の中にレクリエーション担当者を置き利用者と話し合い、出され提案が実現できるように努めている。日常的には近所の畑まで散歩をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関、居室には鍵をかけていない。利用者が一人で出かけた時は、チャイムが鳴るようにするなど工夫している。チャイムが鳴った場合は、即時に職員が確認できる体制が整えられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団、消防署と協力し、夜間を想定した訓練も行っている。災害時の連絡方法もきちんと定められていて、緊急連絡網には町内会長の名前もあり、地域の協力も得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じ献立が続かないように気を付け、食欲が維持されるよう配慮している。利用者個々の摂取量を把握して、栄養バランスにも気を付けている。水分量についても個々の摂取量について配慮し、十分な水分補給を行っている。		3年前に専門家に栄養バランスについて助言をもらっている。今後は定期的に栄養士、または保健師に相談することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所や食堂、浴室などの共有空間は掃除が行きとどき衛生的な環境となっている。換気も適宜行われていて不快な臭いはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆や仏壇、使い慣れた道具を居室に置いて、居心地よく過ごせるように工夫している。また、全員がベットを使用するのではなく、馴染んでいる布団を使用する等、好みに合わせた生活をしている。		

※ は、重点項目。